

令和7年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河第二中学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語、数学、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	54.3%					○
数学	48.3%					○
理科	503点 (IRTスコア)					○

※中学校理科がCBT（コンピューターテスト）により実施され、学校ごとに出題された問題が異なることから、「平均正答率」に代わり「IRTスコア」という指標が使われるようになりました。

「IRTスコア」とは国際的な学力調査で採用されているテスト理論で、この理論を使うと異なる問題から構成される試験の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。なお、標準点は500点となっております。

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	48.1%		○			
話すこと・聞くこと	53.2%					○
書くこと	52.8%					○
読むこと	62.3%					○

【考 察】

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において、漢字を正しく使うこと、言葉の意味を正しく理解することに課題があることがわかりました。継続して新出の漢字や語句を使用する場面を設定し、知識の定着を図っていきます。
- 単元ごとに意見文を書く活動を設け、自分の考えを表現する力を高めることに重点をおいて授業を行いました。その継続が学力向上につながったと思われます。自分の意見を持ち、その理由を説明したりよりよい表現を考えたりするなど、思考力を更に高める活動を行っていききたいといたします。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	43.5%					○
図形	46.5%	○				
関数	48.2%				○	
データの活用	58.6%					○

【考 察】

- 「図形」の領域では、図形の性質や定理の理解に課題がありました。補助線の活用や論理的思考・記述する力が十分ではないことが主な要因として考えられます。今後は、具体物やICT教材を活用した基礎基本の徹底、補助線の引き方や証明の手順を意識した演習、グループでの考え方の共有などを通して、思考力・表現力の向上に努めていきます。
- 「関数」の領域では、一次関数の式についての理解に課題がありました。変化の割合や切片の意味、グラフ・式・表の関係の理解が十分ではないことが主な要因です。今後は、日常生活の事例からともなって変わる2つの数量の関係を考察する活動やICT教材を活用してグラフを読み取り、読み取ったことを表現する力を高める演習を充実させるなど、基礎の定着と活用力の向上を図ります。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

※理科については、一部の共通問題を除き、学校ごとに出題された問題が異なり、かつ公表されている問題も全体の4割程度となっており、国語や数学のように領域別の正答率が提供されていないことから、考察のみ記載いたします。

【考 察】

- 「電気」に関する問題では、電流・電圧・抵抗の関係の理解やそれを活用して考えることに課題が見られました。実験・観察には積極的に取り組む生徒が多い半面、それによって得られた知識を汎用的に用いることができていないことが要因であると考えます。電気の規則性についてももう一度振り返るとともに、さまざまな問題に触れさせながら、活用力を高められるよう努めます。
- 「空気」に関する問題では、身の回りの現象の中から「気圧」によるものを選ぶ問題の正答率がよくありませんでした。これは、学習した内容と生活の中の現象を結びつけて考える機会が少ないことが要因であると考えられます。今後は、授業の最後に学んだことが生活の中のどのようなことと結びついているか話し合う時間を設けるなどして、科学的な見方や考え方を普段の生活にも生かすことができるようにしていきます。

令和7年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河第二中学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、生徒の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
中 3	全 国	27.4	50.1	19.2	2.8
	白二中	31.2	47.1	21.0	0.7

(単位 %)

【考 察】

- 「できている」「どちらかといえばできている」生徒の割合が78.3%と全国平均を上回っています。今後も学校では、生徒が自分で目的をもって学習できるような環境づくりと家庭との連携を強化する取組を図ります。
- 「どちらかといえばできていない」「できていない」という生徒が21.7%います。自分で学び方を考え工夫するのが苦手な生徒には、まずは基本的な学習計画の立て方や調べ方の具体例を示すことが重要です。教員が学習の進め方を細かく示し、段階ごとに支援することで主体的に学習する土台を作っていきます。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
中 3	全 国	9.9	20.9	30.8	19.1	11.3	7.7
	白二中	6.5	14.5	44.9	28.3	4.3	1.4

(単位 %)

【考 察】

- 平日の学習時間が1時間未満の生徒が34.0%と高い数値になっています。「週間予定表や計画表の作成」「スキマ時間の活用」「勉強する場所や環境の工夫」「科目や内容ごとに時間を区切る」「勉強時間の可視化」「小さな達成感の積み重ね」など自分にあった学習環境や方法を見つけ、家庭学習の充実が図れるよう指導を続けて参ります。
- 部活動を引退し、その時間を学習に充てられる生徒が増えるので、家庭学習の重要性を再確認し、自己実現が図れるよう支援します。ご家庭でも励ましの声かけなどをお願いいたします。

3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中 3	全 国	23.0	50.4	21.3	3.7
	白二中	27.5	52.9	18.1	1.4

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の生徒の割合が80%を超え、全国平均を上回っています。授業での学習内容の振り返りにより、自分自身で学習内容を決め、主体的に取り組んだ成果が表れています。
- 「振り返る活動」により力を入れて指導することで、自分にどのような知識・技能が身につき、どのような思考力、判断力、表現力が育ったかを確認することができるようになります。生徒に何を学んだかを実感させるとともに、学習内容を確実に身につけさせられるよう努めていきます。

4 (学校選択項目) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中 3	全 国	31.8	44.8	17.7	4.7
	白二中	23.9	42.0	27.5	6.5

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合が7割に達しておらず、全国平均を下回っています。総合的な学習の時間など、学年・学級同士で良かった点・改善点をフィードバックし合う場を設け、スライドで発表を行う活動をとおして、スキルアップを目指していきます。
- 各教科の発表課題や調べ学習を活用し、グループで資料を作成・発表する機会を多く設け、他教科とも連携しながら、ICTの活用場面を広げることで実践力を養っていきます。